



大正初期の神鹿角切 奈良名勝写真帖より



鹿の角切 昭和28年10月 写真提供：谷井氏



現在の神鹿角切

【22】神鹿角切

奈良の鹿は、春日の神が茨城県の鹿島から白鹿に乗って奈良に来たという伝承から、「神鹿（しんろく）」として大切にされてきた。

鹿の角きりは、江戸時代、町中を歩き回る鹿が人にケガを負わせたり、鹿同士が角を突き合っけてケガをすることを防ぐために行われるようになった。

現在は、毎年10月、鹿苑（ろくえん）で行われ、奈良の秋の年中行事となっています。